

ゆきつばき通信



[開催中] 市立大町山岳博物館創立70周年記念

企画展「北アルプス誕生とそこに息づく高山植物のものがたり」

- 花、果実、種子、芽生え、ときどきふしぎ発見! -

2021年11月28日(日)まで開催中

千葉学芸員・太田専門員によるミュージアムガイド(7/17)より

[第一章] まず、太田専門員より高山植物の土台、北アルプス500万年の地質のお話があった。中緯度の豪雪地帯が多様性を作っている北アルプス。その誕生は、地質時代ではごく最近、地球の今までを1年に例えると12月31日の午後の出来事で、仕上げの氷河期の終わりは0時1分ほど前というお話があった。



[第二章] 千葉学芸員からは、ま

ず、日本の高山植物の成り立ちについてお話があった。標高と植生帯は良く知られているが、北アルプスは高山植物の南限であり、地形による積雪の違いが一番影響を与えているというお話であった。およそ500種の高山植物は、箱庭的に北アルプスの高山を彩っている。

[第三章] 4種の植物、ハクサンボウフウ、ミヤマクワガタ、コマクサ、ハクサンコザクラの生活史に着目し、観察や栽培で得られた様々な興味深い話に加え、「ふしぎ」の投げかけがあった。

今回の展示はタペストリーでディスプレイしたり、博物館からの北アルプスの様々な表情を示したり、ボタニカルアートを配したり、地質と関連付けたり、そんな多様性も感じた。

9月18日には、富山大学の石井博先生によるさんさんぱくゼミナール「高山のお花畑が教えてくれる生き物と生き物の繋がり」が開催される(要申し込み)。

「創立 70 周年記念企画展・北アルプスとそこに息づく高山植物ものがたり」解説書を手にして

この企画展解説書は、山岳環境をテーマに「北アルプスの誕生・激動の 500 万年史」「日本の高山植物群落の成り立ち」「高山植物の花、果実、種子、芽生え、ときどきふしぎ発見!」の内容で構成されています。地質、植物の各分野の先生方が主筆されています。

私は、登山道、お花畑や湿原に咲く高山植物の美しさに魅了されます。どうしてこんな高山に沢山の種類の高山植物があるのか不思議に感じています。登山中に目撃したたくさんの植物、生き物、植物群落や地形・地質と関心のある個所を読み解くと更に高山植物が身近に感じ、ふしぎに気付かされます。次世代を担う若者たちにも手に取って欲しい内容です。これからの登山を豊かにしてくれる解説書です。

有川美保子記

博物館事業ご案内 友の会も協力します

さんぱくゼミナール（講演会）

「高山のお花畑が教えてくれる生き物と生き物の繋がり」

講師に石井博さん（富山大学理学部教授）を向かえ、高山で繰り広げられる生き物とのつながりやふしぎなどについてお話をさせていただきます。

日 時 9 月 18 日（土） 13:30～15:30 友の会も

場 所 市立大町山岳博物館 講堂

募集人員 先着 30 人 定員になり次第締め切ります。 無料

申し込み 電話・FAX・Eメール、または直接、当館へ。

親子地学教室 「河原の石ころを見に行こう」 大町山岳博物館主催



河原の石からアルプスのでき方を考えます

日 時：9 月 12 日（日） 9:00～11:30

会 場：籠川の河原

対 象：小学生とその保護者（定員 20 名）

参加費：1 組 500 円

※要事前申込み

「大町自然探検隊」 大町山岳博物館主催

小・中学生とその保護者を対象とした、動物の観察イベントです。2022 年 3 月にかけて、大町市を中心とした様々なフィールドで野鳥や昆虫、生き物の痕跡を観察します。

開催日、時間、定員は山博ホームページ イベント からご確認ください。

対 象 小・中学生とその保護者

申込み 山岳博物館へご連絡ください

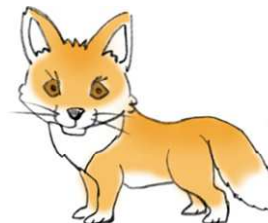
費 用 保険料として各イベント 100 円/人ご持参ください

※全イベント現地集合、現地解散です。

※各イベント開催日の前月 1 日から受付を開始いたします。

9/11(土) バードウォッチング (居谷里湿原)

2/ 5(土) アニマルトラッキング (鷹狩山) など



昭和 26 年 11 月 1 日、青年たちの熱意は日本で最初の山岳博物館を誕生させた・・・
市立大町山岳博物館 創立 70 周年記念事業が次のように計画されています。

いずれも、会場：大町市文化会館 対象：どなたでも 参加費無料・要事前申込み

◆10 月 9 日 (土)

山岳博物館 70 周年記念講演会 1

「エヴェレストが教えてくれたこと」

主催：市立大町山岳博物館

共催：公益社団法人日本山岳会 長野県山岳協会

講師：平林克敏氏 (国内初エヴェレスト登頂者)

時間：13:00～15:00

◆11 月 20 日 (土)

山岳博物館創立 70 周年記念式典・講演会 2

「(仮)オーストリアとアルプス動物園」

主催：市立大町山岳博物館

時間：14:00～16:00

- 1951 (昭和 26) 年 北アルプスの麓、大町に日本初の山岳博物館が開館
- 1952 (昭和 27) 年 博物館法に基づく博物館として登録
- 1956 (昭和 31) 年 ニホンカモシカを初めて保護・飼育 (岳子：21 年間飼育)
- 1957 (昭和 32) 年 現 大町公園へ大町南高等学校校舎を移築。二代目博物館開館
- 1960 (昭和 35) 年 コマクサの低地栽培・研究を 5 ヶ年計画で実施
- 1961 (昭和 36) 年 爺ヶ岳にてニホンライチョウの調査を実施
- 1963 (昭和 38) 年 ニホンライチョウの低地飼育・研究を開始
- 1982 (昭和 57) 年 現在の場所に 3 代目博物館が新館オープン

報告

自然観察会 八方尾根を歩く

《期 日》 7月22日(木・祝) 午前8時 ～ 15時

《場 所》 白馬村八方尾根 黒菱平～八方池

《参加者》 20名

《講 師》 千葉悟志学芸員

《役 員》 有川美保子、丸山優子 (花めぐり紀行) 板橋和子 宮澤陽美

下見した結果、連休初日で混むだろうと予想されたので、電話連絡して開始時間を繰り上げた。

説明を受ける人数は10名程度なら良く聞こえる。鎌池で初めの説明を受けたときそれが確認でき、千葉講師にはふた班の間に入って二度話をしてもらったりした。ほかの登山者が大勢いた中で、参加者で邪魔にならないよう気配りしてくれた人もいたのがありがたかった。

解説書を持ち歩いてそれを広げて講義を受けたが、家族に一冊だったので見られない人がいた。下見の際見られたものを解説書から予め抜粋したコピーを配った方がよかった。さらに内容が難しかったので、事前学習ができればよかったかもしれない。

昼食の時、ゆっくりルーペで観察したりしている姿も見受けられた。二重山稜などの話も要所々々で聞いたのが生きた学習といえる。八方池の上では実際の現場で足元を見たり山を見ながら地質のお話と高山植物の関係など聞いたのは良かった。



高山植物のリスト (当日見られたもの あいうえお順)

イブキジャコウソウ	オヤマソバ	コバイケイソウ	タテヤマリンドウ
イワイチョウ	カライトソウ	シモツケソウ	チシマギキョウ
イワカガミ	キバナノカラマツバ	ゼンテイカ	チングルマ
イワシモツケ	キンコウカ	タカトウダイ	トリアシショウマ
ウラジロハナヒリノキ	シナノオトギリ	タカネイブキボウフウ	ハクサンシャジン
ウラジロヨウラク	キバナノコマノツメ	タカネナデシコ	ハクサンタイゲキ
エソシオガマ	クモマミミナグサ	タカネバラ	ハクサンチドリ
オオコメツツジ	クルマユリ	タカネマツムシソウ	ハクサンボウフウ
オニアザミ	クロマメノキ	タテヤマウツボグサ	ハッポウウスユキソウ

ハッポウタカネセン	ミヤマアズマギク	ミヤマダイヤモンドソウ	ヤマブキシヨウマ
ブリ	ミヤマクワガタ	ミヤマトウキ	ユキワリソウ
ハナニガナ	ミヤマコゴメグサ	ミヤマムラサキ	ヨツバシオガマ
ヒロハヘビノボラズ	ミヤマセンキュウ	ムシトリスミレ	ワレモコウ
ホソバツメクサ	ミヤマゼンゴ	ヤマトキソウ	

太字は高山植物ものがたりのテキストを見ながら千葉さんから説明を聞きました。なお、オヤマソバはオンタデ、チシマギキョウはイワギキョウのページを参考にして勉強しました。

(担当役員 記)



[感想文]

八 方 尾 根 観 察 会

太田敏子

久しぶりに友の会の方たちとトレッキングを楽しみました。天気は上々、「ふしぎ発見！」の本も頂き、素敵な一日の始まりです。少し前までコバイケイソウとゼンテイカでいっぱいだった黒菱平はオニシモツケ、クルマユリにそろそろ移り変わる時期となりました。早速、千葉さんのお話が始まったのですが、イメージ変!!人って面白いです。そして、あら、今回は訪花昆虫? と嬉しい一日の始まりでもありました。



八方尾根に足繫く通うようになって思ったのは、ある地点に立った時に見えるものの全部がわかっただけなのに（この時は名前だけ）ということです。花も草も木も虫も鳥も石も。花と昆虫の田中肇さんの著書も集めました。読みましたと胸を張って言えないところが私です…難しくないところが私向けで、他の分野にもこんな感

じで手を伸ばしていきましたが、まあ、広く浅くの日々でした。山博にも友の会にも教えを請える人がたくさんいらして、恵まれた環境にいる幸せを感じます。長花柱花、短花柱花なんて用語を、くだけた易しい説明が出来るほどに自分の知識を深めていくことが私の一つの目標であり、もう一つは、じっくりと掘り下げた知識も身に着けたいと思います。

千葉さんのお話しで一番心に残ったのは、〇〇先生が言っていたから、ということに納得しないで、自分でしっかり確認すること、ということですが、ん～そうなのかなぁと。難しい課題



です。高山植物がたくさん見られる場所で、いつもと違う方面から花を見る！地質、雲のお話しも聞けましたし、今後も皆様とのつながりを大切に、会の活動に参加できればと思います。ありがとうございました。

標本づくり講座 ～特別展 さんぱく収蔵コレクション北アルプスに生きた動物の記録～

剥製づくりがどんなものか覗いてみた。作り方などは博物館の報告を見てください。感想を聞いてみた。

1、3年生女子姉妹：特に楽しくなかった。内臓見たのが気持ち悪かったとのこと。皮が破れてうまく成型できなかったのだがぬいぐるみ的なものにしたら喜んでた。5年生の男子：縫い合わせが楽しかった。将来こういう仕事したいといった。4年生女子：疲れた。2回目からは慣れてきて可愛かった。乾いたら羽がきれいになった。最高齢の女性は88のお祝いに、人生でやったことがなかったこと、自分になら思い切ったものをプレゼントできると思ってこの剥製づくりを選んだとのこと。素晴らしい。最年少の5歳男の子はすぐあきて寝たりしていたが、剥製のおなかの中に詰める綿を“あしか”の背中に積んで、世界中を泳ぎ回るあしかを作って元気になり遊んでいた。全体的には剥製女子が多く、今年浪人しているかわいらしい女子も一人で一体作り上げ、生物の方に進みたいと言っていたので多分いい経験になったんじゃないかなと思う。



(丸山優子)

烏帽子の会

活動報告 《「烏帽子の会」勉強会》

《月日》5月22日（日） 《天気》うす曇り

《参加者》講義参加者 20名 南鷹狩山トレッキング参加者 17名

5月22日に山岳博物館友の会の会員で長野県山岳協会副会長の西田均さんを講師にお迎えして「中高年を意識してより安全な山登りを見直してみる」と題して講演会を開催しました。「烏帽子の会」も発足20周年を迎え平均年齢が70歳を超えました。2か月に1度の里山歩きですが、ここでもう一度きちんと基本を見直そうということで企画をいたしました。講演の内容をまとめてみました。



1. 登山の特性

1) 他のレクリエーションスポーツと比較して負荷が高い。上り下りがあり、平地ばかりではない。荷物を担いでいる。重量によって筋肉・心肺の負荷が増加する。心拍数は空身で90だとすると10kgの荷物で+17拍、下りでは筋肉への負荷が増加する。心拍数は+13拍。天候にも左右される。荒天でも好天でも影響がある。荒天では低体温症や風が強ければ息ができないようなときもある。冬山登山（本格的な）では全身の筋肉を使うので1日4,300kcal フルマラソンよりもカ

ロリーを消費する。

好天では日焼け、脱水症状など、標高が高くなれば酸素濃度が低くなる。

- 2) 自己対応が基本 アクシデントの対応
登山計画書の作成をして提出すること。
家族に行先を伝えておくこと。留守本部を決めておくこと。
- 3) 里山の落とし穴 害虫が多い、山仕事の道や山菜取りの道などの踏み跡が多く道に迷いやすい。道間違えはだいたい下りでおきる。

2. 中高年の特性

- 1) 体力の低下 心肺 筋力 関節 バランス 循環器系疾患
- 2) 適応能力の低下 体温調整 感覚 暑さ 寒さを感じにくくなる。喉の渇きも感じにくくなるので、休憩ごとに喉が渇いていなくても水と行動食をとることが必要
- 3) 思い込みの強さ（言うことをきかない・・・）

3. リカバリー



- 1) 装備 軽量化する。ひと様用のお菓子や漬物は持っていかない。
なるべく軽くする必要はあるが、最低限の装備は必要
西田さんが必ず持っていくものは、ヘッドランプ（日帰りでも）・レインウェア・地図・コンパス・スマホ・テーピングのテープ・ストック（転ばぬ先の杖）・充電器（泊りの時）・医薬品（ポイズンリムーバー・薬・添木等）
細引きのロープ
- 2) 食糧 エネルギーの補給 すぐにエネルギーになる炭水化物がいい。塩分も大事なので甘いものだけではなくしょっぱいものも持っていく。ペットボトルで売っているポカ

リやアクエリアスのようなドリンクは濃いので粉末のものを少し薄めにして持つていく。山登りでは呼吸が増えて汗もかく。そうすると血液が濃くなり、血液中の酸素も薄くなり判断力が落ちる。パニック状態になるとさらに判断能力がおちるのでエネルギー補給、水分補給は大事

- 3) トレーニング・ケア 筋肉をつけるようなトレーニングではなく、持久力をつけるようなトレーニングがいい。
山に行くためのトレーニングは山に行くのが一番いい！そうです。

講義のあと、南鷹狩山（地元では「けつ山」というらしい）までのトレッキングに出かけました。実際にストックのつき方や足の出し方などのレクチャーを受けました。

ただ前に足を出すだけではなく、少しカニ歩きのように横に出して歩くと負担が減るとか

2本のストックを突くことにより体のバランスを取りやすくするとか、口笛を吹くように腹式呼吸で息を吐く「シェルパ式呼吸法」などすぐに実践できるとても有意義な内容でした。

南鷹狩山の三角点を見つけてその場で友の会会長の宮澤さんから三角点についてのお話をいただきました。三角点には一等から五等まであり、一等三角点の中に二等三角点があり、また二等三角点の中に三等三角点がある。その三角点を結んでいくと日本地図ができるそうです。最初の三角点がどこなのかは各自宿題になりました。

この講義を通して「烏帽子の会」でも反省点がいくつもありました。

1. 山行計画は作成していて、担当は必ず下見をしている。山行計画を事前に山岳博物館友の会に提出している。でも参加者全員がその山行の内容を把握しているか？
リーダー任せになっていないか？
2. 留守本部は山岳博物館になっているが、メンバー全員の緊急連絡先を事務局で保



管しているの、何かアクシデントがあったときに留守本部では緊急連絡先がわからない。これは早急に対応する。（緊急連絡先のファイルを留守本部にも置く）

今後も「烏帽子の会」としてこのような勉強会を開催し、安全で楽しい自己責任の里山歩きをしていきたいと思いました。（記 烏帽子の会事務局）

活動報告 《霧訪山 分水嶺コース》

《月日》7月18日（日） 《天気》晴れ 《参加者》16名

《コース状況：その他周辺情報》

霧訪山は烏帽子の会にとってなじみ深い山です。まず発足の翌年小野コースより、2009年4月おきな草、カタクリの咲く春、下西条より、奇しくも毎回16名の参加で、手軽に楽しむ山頂からの展望の良い山です。今回は善知鳥峠からの分水嶺コース、以前はあまりポピュラーではありませんでしたが今



は駐車場も10台位止められ、コースの道、分岐の案内も整備されています。昨年4月大芝山山頂の看板はとても古い小さな物でした。春にはイワウチワ、カタクリなどいろいろな花が楽しめるコースですが今は緑の木々に囲まれた道で展望は望めません。

《感想》

梅雨明けの好天に恵まれ暑さ対策を心配していましたが、木陰と谷からの爽やかな風もあって熱中症予防にこまめに水分補給をしながらの登山でした。大芝山、下西条の分岐まではやや急登ありゆっくりのペースでしたが、後は緩やかなアップダウンの繰り返しで、リーダーのペース配分も良く皆お喋りや木々の緑を楽しみつつ、男坂、女坂を経由し山頂到着しました。狭い頂上は千客万来、富士山は見えませんが、八ヶ岳、北アルプス、槍、穂高も望めました。昼食、記念撮影の後12:15下山開始、14:05登山口到着。

今回は前回参加し入会された1名の他三人のお試し参加の方あり、皆さん楽しい仲間



になって頂けそうです。以前からの仲間も久しぶりの再会、ワイワイガヤガヤいつもの烏帽子の会らしくおしゃべり、笑顔がはじけました。コロナ禍、熱中症にも負けず7月定例会無事終了しました。車を運転して頂いた方、案内等それぞれの係りの方、事務局の方有難うございました。

《コースタイム》

松川村道の駅(8:00) 善知烏峠駐車場(9:00) 登山口(9:10) 大芝山(10:20) 霧訪山山頂(11:30 昼食) 頂上出発(12:15) 登山口(14:05) 松川道の駅(15:10)

今回は、9月19日(日)に、御嶽山を予定しています。剣ヶ峰まではいけませんが、田の原駐車場から王滝頂上(2,936m)までを挑戦したいと思います。

サークル人数が多くなったため、烏帽子の会の新規募集はしておりません。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局(電話:0261-23-6334)まで

ボランティアサークル

博物館収蔵庫のはく製を保管する棚の入れ替え設置作業を行いました。さんばく収蔵コレクション「北アルプスに生きた動物の記録」にあわせての作業で、展示されていたはく製も収蔵庫に戻しました。

秋には研修見学も予定しています。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局(電話:0261-23-6334)まで

ゆきつばき通信編集室より

今回ご案内が間に合いませんでしたが、10月23日(土)に「古道・善光寺道を歩く(I)」を計画しています。牛にひかれて善光寺、北国街道がよく知られていますが、大町からも「峰街道」と呼ばれる道があり、保存会が手入れを進めています。いろいろ歴史を学びながら、何回かに分けて訪ねてみたいと思っています。9月の「山と博物館」に号外で案内を入れます。今年は大町山岳博物館創立70周年。秋には記念講演会が計画されています。あわせて予定しておいてください。

(丸山卓哉)

ゆきつばき通信 第188号

発行/大町山岳博物館友の会 2021年8月14日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ <http://www.omachi-sanpaku.com/>

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

